

法華コモンズ仏教学林

2020(令和2)年度 前期 4月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

《 開設講座 》

- 一日集中講座「日蓮主義をあらためて問い直す」
講師：大谷 栄一 …【6月20日(土)】 4頁

- 連続講座「現代の法華菩薩道とは何か」全5回
 - 第1回 政教分離下での「立正安国」—創価学会・公明党と立正佼成会・WCRPの挑戦
講師：中野 毅 …【4月11日(土)】 5頁
 - 第2回 教学の「再歴史化」をめざして—法華コモンズ仏教学林の試み—
講師：布施 義高 …【5月23日(土)】 6頁
 - 第3回 救ライから総合福祉へ—法音寺福祉の法華的基礎—
講師：弓削多一郎 …【7月4日(土)】 7頁
 - 第4回 地球温暖化に対する仏教の役割試論—共生論より蘇生論へ—
講師：原井 慈鳳 …【8月22日(土)】 7頁
 - 第5回 四菩薩行の今日的理解—現代の法華菩薩道としての「四菩薩プロジェクト」—
講師：西山 茂 …【9月26日(土)】 8頁

- 「歴史から考える日本仏教⑤ 承久の乱から考える鎌倉仏教」全4回
講師：菊地 大樹 …【4月~7月 火曜日】 8頁

- 「『法華経』『法華文句』講義」全6回
講師：菅野 博史 …【4月~9月 月曜日】 10頁

法華コモンズ仏教学林事務局

「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開顕」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊な歴史状況のなかに繰り返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。



皆様のご参加をお待ちしております！ 学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。

これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。



法華コモンズ仏教学林 スタッフ紹介

【運営スタッフ】

- 理事長 西山 茂
- 学林長 布施義高
- 事務担当 澁澤光紀
竹内敬雅
- 財務担当 竹内敬雅
- 総務担当 西條義昌
谷口 智
- ブログ担当 林 明彦

【教学委員】

- 上杉清文
- 花野充道
- 菅野博史
- ツイッター担当 武川清明

【講座担当】

- 講座（集中講座）武川清明 作田光照
波田地克利 他
- 講座（現代菩薩道）山名隆年 西山明仁
佐古弘純
- 講座（菊地先生）宮崎伸治 西山明仁
- 講座（菅野先生）稲田隆広 作田光照

【 講座会場 】

福聚山 常円寺 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

祖師堂地階ホール（または日蓮仏教研究所の一階「学室」）

※7/20～秋彼岸前の間は、本堂改修工事にともない「学室」が会場になります。
ご注意ください！

《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
⇒ 新宿駅西口改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



◎受講申込は、最後の12頁に申込説明と「申込欄」がありますので、そちらをご覧ください。

—法華コモンズ仏教学林 2020 年度 前期 一日集中講座

日蓮主義をあらためて問い直す

講師：大谷栄一 先生

【講義概要】

昨年（2019 年）8 月に刊行した拙著『日蓮主義とはなんだったのか——近代日本の思想水脈』をベースに、近代史において日蓮主義が果たした宗教的・社会的・政治的役割について、あらためて問い直してみたい。田中智学と本多日生によって 20 世紀初めに創唱された日蓮主義という近代仏教思想がなぜ、高山樗牛、石原莞爾、宮沢賢治、妹尾義郎、井上日召らに影響を与え、20 世紀前半の日本社会や東アジアで広く受容されたのか。

本講義では、日蓮主義の影響関係をたどり直すとともに、日蓮主義とナショナリズム、社会主義、アジア主義、超国家主義との交渉と接合、日蓮主義と日本主義との葛藤など、日蓮主義と近代思想との関係を再検討することで、日蓮主義の可能性と限界を明らかにすることをめざす。あわせて、後期近代における日蓮仏教（法華仏教）の課題についても問題提起してみたい。

【講師略歴】

大谷栄一（おおたに えいいち）。1968 年、東京都生まれ。東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。博士（社会学）。現在、佛教大学社会学部教授。専門は宗教社会学、近代仏教。主な著書に『近代日本の日蓮主義運動』（法藏館）、日本宗教学会賞・中村元賞）、『近代仏教という視座』（ペリかん社）、『ともに生きる仏教』（編著、ちくま新書）、『日蓮主義とはなんだったのか』（講談社）他。

【日 時】6 月 20 日（土）

開場：12 時半より 開講：午後 13 時 30 分 （17 時 30 分終了予定）

【受講準備】可能な範囲で、『日蓮主義とは何だったのか』（講談社）を事前にお読みください

※本書は、コモンズ開講日の受付にても頒布をしています

【進 行】	12：30 開場	15：30 講義再開
	13：30 講義開始	17：00 質疑応答
	15：15 休憩（15 分間）	17：30 終了予定

【受講料】 5,000 円

—法華コモンズ仏教学林 2020年度前期 連続講座 全5回—

現代の法華菩薩道とは何か

《特別講座企画について》

当学林の西山茂理事長が提案した構想に、「四菩薩プロジェクト」があります。四菩薩とは、『法華経』の「從地涌出品第十五」に登場する地涌の菩薩のリーダー、上行菩薩・無辺行菩薩・浄行菩薩・安立行菩薩のことです。この四菩薩のそれぞれの理念と領域を、私達が担って理想の社会を作り上げる、というのが四菩薩プロジェクト構想です。今回は、上行＝立正安国、無辺行＝教学、浄行＝環境、安立行＝福祉として、《現代の法華菩薩道の実践とは何か》を学んでいきます。ぜひご聴講のほどお願いいたします。

【会 場】新宿常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

【受講料】1期分 10,000円 (半年間5回) ※1回のみ聴講は 3,000円です

【日 時】毎月1回 土曜日の午後4時～6時 (2020年4月～9月の5回)

※各回とも、講義終了後に講師を囲んでの懇親会があります (会費有り)

第1回 政教分離下での「立正安国」-創価学会・公明党と立正佼成会・WCRPの挑戦-

講師：中野 毅 先生

【日 時】2020年 4月 11日 (土) 午後4時～6時

【講義概要】

法華コモンズが実践的に推進する四菩薩プロジェクトのうち、上行プロジェクトの重要なテーマは、われわれが住む国土、社会を現実的に仏土にすることである。それは日蓮が唱えた「立正安国」を現代にいかに実現するかである。戦前の田中智学、石原莞爾などの「天皇制日蓮主義」もその例といえるが、それらは敗戦とともに頓挫した。

戦後、象徴天皇制のもとで民主化され、政教分離制度が確立した日本社会で、立正安国を実現しようとする運動は、創価学会の公明党による政治参加と立正佼成会による宗教間対話型平和運動の「世界宗教者平和会議」(WCRP)に見いだすことができる。日蓮信仰、法華経信仰に基づいたこの2つの運動は、しかし対照的な特徴を示している。前者は政治権力の領域に入り込んで上から仏国土を実現しようとし、後者は幅広い宗教協力というヨコの連帯で実現しようとしていると捉えることもできる。この講義では、両者の歴史、理念、運動の特徴、相違点を整理しながら、現代社会における立正安国とは何かを、考えていきたい。

【講師略歴】

中野毅（なかの つよし）。昭和 22（1947）年 茨城県生まれ。東京大学文学部卒業、筑波大学大学院修了。博士（文学）。創価大学文学部にて宗教学・宗教社会学を教え、2018 年 3 月に定年退職。現在、創価大学名誉教授、（公財）国際宗教研究所顧問、日本宗教学会評議員。主な著書論考に、『宗教の復権』（東京堂出版 2002 年）、『戦後日本の宗教と政治』（大明堂 2003 年）、「民衆宗教としての創価学会」（『宗教と社会』第 16 号 2010 年 6 月）、「戦後日本社会と創価学会運動」（西山茂編『近現代の法華運動と在家教団』シリーズ日蓮 4 春秋社）2014 年。「戦後民主主義と創価学会の戒壇建立運動」（『本門戒壇論の展開』本化ネットワーク叢書 3 2015 年 4 月）、その他。

第 2 回 教学の「再歴史化」をめざして－法華コモンズ仏教学林の試み－

講師：布施 義高 先生

【日 時】2020 年 5 月 23 日（土） 午後 4 時～6 時

【講義概要】

本化ネットワーク研究会（東洋大学教授〈現名誉教授〉西山茂氏主宰）では、日蓮法華仏教の「再歴史化」を理念に、様々な課題に関する各方面の第一人者や各教団で活躍する学者、研究者を招き、教団の垣根を超えた貴重な学びの場を提供していた（平成 17～27 年）。一方、シリーズ日蓮の刊行が春秋社によって企画され、当時の日蓮全門下の学者・研究者が広く協力する形で、全五巻が編まれた（平成 27 年刊行完結）。こうした貴重な流れを日蓮門下全体の未来に紡ぎ、各方面に花を咲かせる種を蒔くという大きな志のもと、西山先生を理事長に仰ぎ、平成 28 年 4 月に法華コモンズ仏教学林は始動した。

本年 4 月からはその活動も、5 年目を迎える。今回は、講義を前半と後半とに分け、前半ではこれまでの軌跡を振り返りながら、「再歴史化」を視野に据えた教学的課題の確認を行い、後半では、スタッフの意見や当日参加の聴講者の声をも拝聴し、皆で今後の当学林の活動の方向性を模索していきたい。

【講師略歴】

布施義高（ふせ ぎこう）。1968 年生まれ、新潟県出身。立正大学大学院文学研究科仏教学専攻修士課程修了。法華コモンズ仏教学林学林長。法華仏教研究会副編集長。法華宗（陣門流）教学部長、学林教授。立正大学非常勤講師（H25・27・29、R1）。日本印度学仏教学会理事。東京・法華宗（陣門流）持法寺住職。研究テーマは法華教学史・日蓮教学史。「日蓮と天台本覚思想」「本迹論の諸相」など論文多数。

第 3 回 教ライから総合福祉へ－法音寺福祉の法華的基礎－

講師：弓削多一郎 先生

【日 時】2020 年 7 月 4 日（土） 午後 4 時～6 時

【講義概要】

「信仰と福祉の寺・法音寺」は、宗教と医療と福祉、および感化教育を一体化した「丸ごとの救済」を通して人々を法華経信仰へ導こうとした仏教感化救済会に端を発している。安立行菩薩の自覚を得た初代会長・杉山辰子は、貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、差別を受けたハンセン病患者に寄り添い、親を失った子ども達を養育した。その仏教福祉の理念は法音寺に引き継がれ、日本初の社会福祉教育専門4年制大学・日本福祉大学を開設。また、高齢・障がい・児童の19福祉拠点で事業を展開。講義では「法華菩薩道」の観点から法音寺福祉の歩みを考察する。

【講師略歴】

弓削多一郎（ゆげた いちろう）。1960年生まれ。早稲田大学卒業後、東京都内の私立中高一貫校で32年間専任教諭として教職に携わる。現在、日蓮宗大乘山法音寺事務長兼広報担当、学校法人日本福祉大学理事、社会福祉法人昭徳会総務部長を務める。

第4回 地球温暖化に対する仏教の役割試論 一 共生論より蘇生論へ一

講師：原井 慈鳳 先生

【日 時】2020年 8月 22日（土） 午後4時～6時

※会場が、日蓮仏教研究所となります

【講義概要】

今日の経済市場による飽くなき利益の追求とその結果の気候変動による地球環境の悪化は深刻な状況にある。その中で、近年各界から共に生きる「共生論」が上がっている。

しかし、人類は他の命の犠牲の上に生かされており、多くの種を絶滅に追いやって来た。人類は今日、使用済核燃料・コロナウイルス等とも決して共生はできない。されば、我々は人類自らの懺悔の上に他の命に尽くす生き方を求めなければならない。現代科学文明の直面した難題には摂受論的共生論では今や対応できず、「菩薩行」の今日的意義を考察して蘇生論で対応しなければならない。先ず、人々の心の蘇生がなければ環境の蘇生は実現しない。今日の社会にビジョンとして「蘇生」を掲げ、実践しなければならないと主張するものである。

【講師略歴】

原井慈鳳（日鳳）（はらい じほう（にっぽう））。昭和19年静岡県生まれ。昭和43年早稲田大学卒業後、東京船舶株式会社勤をへて、昭和46年より法華宗宗務院に務め、沼津市妙泉寺住職就任。昭和49年法華宗興隆学林を卒業。法華宗財務部長をへて宗務総長（第一次、第二次）、法華学園理事長など歴任。平成19年に「菩薩行研究所」を設立、同所長。平成30年2月大本山光長寺貫首、令和元年11月法華宗第138代管長に就任。論文著作に、『今日の立正安国論を考える』、『危機の時代に生きる思想と実践』、『日法聖人の足蹟をたずねて1～10』（「無上道」連載）、『武田信玄の死因を探る』（「在野史論」新人物往来社）、『供養と蘇生』（「菩薩行」菩薩行研究所）、その他多数。

第5回 四菩薩行の今日的理解 —現代の法華菩薩道としての四菩薩プロジェクト—

講師：西山 茂 先生

【日 時】2020年 9月 26日（土） 午後4時～6時

【講義概要】

四菩薩プロジェクトとは私の造語であるが、上行・無辺行・浄行・安立行の本化四菩薩のお働きを現代の法華菩薩道としての平和（政治）活動・学術活動・環境応用活動・福祉活動に置き換え、それらの実践応援を通して理想の妙法社会をこの世に樹立しようとするプロジェクトのことである。この講義は前4回の「まとめ」として、四菩薩プロジェクトそのものについて語るものである。なお、受講者は、予め、『シリーズ日蓮』第4巻（2014年、春秋社）のIV-3に所収の拙稿をお読みくだされば幸いである。

【講師略歴】

西山茂（にしやま しげる）。1942年、埼玉県生まれ。東京教育大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程単位取得満期退学。東洋大学社会学部教授を経て、現在、東洋大学名誉教授、東洋大学東洋学研究所客員研究員、法華コモンズ仏教学林理事長。専門は宗教社会学とりわけ宗教運動論と教団組織論。単著に『近現代日本の法華運動』（春秋社、2016年）、単編著に『シリーズ日蓮第4巻・近現代日本の法華運動と在家教団』（春秋社、2014年）、共編著に『新宗教事典』（弘文堂、1990年）、『現代人の宗教』（有斐閣、1988年）、『リーディングス日本の社会学19・宗教』（東京大学出版会、1986年）などがある。

—法華コモンズ仏教学林 2020年度前期 連続講座 全4回—

歴史から考える日本仏教⑤

承久の乱から考える鎌倉仏教

講師 菊地 大樹 先生

【講義概要】

この講座は、歴史学の立場から日本仏教のさまざまな側面を継続的に考えてゆくことを目指します。これは言い換えれば、教理文献に残された思想を、それが著された時代の文脈の中で立体的にとらえなおす営みに他なりません。しかもひとつの時代は系譜となって、前後に長く連なってもいます。そこで日蓮の生きた鎌倉時代をつねにどこかで射程に入れつつも、ときには原始古代にまでさかのぼり、また私たちの生きる近現代にも立ち戻って進んでいきたいと思えます。

2020 年度前期は、承久の乱（1221 年）を取り上げたいと思います。戦乱の時代たる中世の中でも、南北朝の内乱や享徳・応仁の乱と並んで画期をなすのが、鎌倉幕府を打倒すべく後鳥羽上皇が兵を挙げた承久の乱です。近年、このような内乱・戦争を通じて歴史を考えることはひとつのブームとなっています。それは、戦乱が政治勢力の衝突という表面的な事件の経過に留まらず、飢饉や流通、さらには宗教にまで様々な影響を及ぼし、ダイナミックな歴史の転換を生き生きと伝えてくれるからでしょう。背景となる、鎌倉時代の朝幕関係や後鳥羽上皇がよって立つ院政の仕組みについても、高校日本史の範囲を一步越えつつ、分かりやすくクローズアップしてみたいと思います。

そしていうまでもなく、この乱の翌年に日蓮が誕生しました。彼にとって承久の乱は現代史の始まりであり、宗教的思惟の出発点として終生重視されました。のみならず、彼が批判した専修念仏教団にも、承久の乱による後鳥羽上皇の敗北は念仏弾圧の報いと考えた人々がいたのです。乱後の新たな体制のもと、朝廷や幕府はこうしたさまざまな宗教運動と対峙していきました。いっぽう顕密僧を代表する慈円も、『愚管抄』の執筆によっても後鳥羽の挙兵を止めることができず、晩年になってから自身の宗教的確信を大きく揺り動かされていきます。日蓮の承久の乱に対する考察は、このような顕密の宗教への批判ともなって現われました。本講義では、以上のような切り口から、4回に分けて承久の乱と鎌倉仏教、そして日本中世の歴史へと展望を広げて行くきっかけを、参加者のみなさんとともに掘ってみたいと思います。

【全4回 講義日】 ※毎月第3火曜日（7月は第一火曜日） 午後6時30分～8時30分

- 第1講 4月 21日（火） 院政と承久の乱への道
- 第2講 5月 19日（火） 承久の乱と鎌倉武士
- 第3講 6月 16日（火） 承久の乱と鎌倉仏教
- 第4講 7月 7日（火） 乱後の時代を見わたす

【テキスト準備】

坂井孝一『承久の乱一頁の「武者の世」を告げる大乱一』（中公新書 2517・中央公論新社、2018年、本体900円）をテキストとします。各位ご購入の上、毎回の講義にご持参ください。

【講師略歴】

菊地大樹（きくち ひろき）。1968年東京都生まれ。東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。現在、東京大学史料編纂所准教授。著書に『鎌倉仏教への道』（講談社、2011年）他。論文に「聖一派における仏身論の展開」（阿部泰郎他編『中世禅への新視角』臨川書店、2019年）、「日蓮『念仏者追放宣状事』と鎌倉時代の専修念仏」（『興風』30、2018年）他。

【受講料】 1期分 10,000円（全4回の講義） ※1回のみ聴講は 3,000円です

—法華コモンズ仏教学林 2020 年度 前期 連続講座—

「『法華経』『法華文句』講義」

講師 菅野 博史 先生

【講義概要】

今年度の前期は、『法華経』、『法華文句』（巻第二下）の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの經典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われるので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。なお、福神研究所主催の『摩訶止観』の講義はすでに六年目に入り、巻第五下（十乗観法の破法遍の部分）を講義をしているところです。この講義と同日、同所で開催しています（時間は 15 時～17 時半）。

★教科書 『法華文句』Ⅰ～Ⅳ（第三文明社、各冊 2,530 円）→割引価格各冊 2,000 円

★『法華経』はプリントを配布します。

【講師略歴】

菅野博史(かんの ひろし)。1952 年福島県生まれ。1976 年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984 年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994 年文学博士（東京大学）。現在創価大学文学部教授。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か—摩訶止観正修止観章—』（第三文明社）、『法華経入門』（岩波書店）、『中国法華思想の研究』（春秋社）、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経—永遠の菩薩道—』（大蔵出版）、他。訳書に『法華文句・ⅠⅡⅢⅣ』『法華玄義・上中下』（第三文明社）。

【講義日】 ※原則第 4 月曜日（6 月、8 月、11 月、12 月は別） 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

第 1 回 4 月 27 日

第 6 回 9 月 28 日

第 2 回 5 月 25 日

第 1 回 10 月 26 日（後期）

第 3 回 6 月 29 日

第 2 回 11 月 30 日 //

第 4 回 7 月 13 日

第 3 回 12 月 21 日 //

第 5 回 8 月 31 日 ※会場は「学室」

※後期の第 4～6 回の日程は未定

【受講料】 1 期分 12,000 円（第 1 回～第 6 回分） ※1 日のみ聴講は 3,000 円です

法華コモンズ仏教学林 講座映像(DVD)シリーズ 販売中!

◎「『吾妻鏡』と鎌倉仏教」 菊地大樹先生 全6回

【講師】菊地大樹（きくちひろき）：東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。現在、東京大学史料編纂所准教授。専門は日本中世史、仏教史。著書に『鎌倉仏教への道』（講談社）、『中世仏教の原形と展開』（吉川弘文館）など。

第1講 『吾妻鏡』と鎌倉仏教	第2講 源頼朝の時代と法華信仰
第3講 鎌倉武士と仏教	第4講 都市鎌倉と天台宗
第5講 都市鎌倉と日蓮	第6講 京と鎌倉、そして鎌倉仏教

◎「初期仏教研究」 池上要靖先生 全6回

【講師】池上要靖（いけがみようせい）：立正大学大学院修士課程修了。身延山大学仏教学部長・教授。立正大学文学部非常勤講師。専門は、初期・東南アジア仏教、仏教福祉学。論文に「kulaputri が意味するもの」など多数。

第1回「初期仏教經典の理解」	第2回「史料価値としての初期經典」
第3回「經典成立の過程—記憶から記録へ—」	第4回「仏滅年代の記述」
第5回「もう一つの仏像建立史」	第6回「初期仏教經典は仏説か？」

◎「歴史から考える日本仏教① 鎌倉時代を射程にいれて」

菊地大樹先生 全6回

第1講 山の宗教の原像
第2講 古代仏教と山林修行
第3講 中世成立期における山林修行の変質—日蓮の時代へ—
第4講 中世王権と山林修行
第5講 中世における山林修行の諸相
第6講 里山寺院の定着と近世近代の社会

【A版】全6回講義の動画ファイルとレジュメPDF **ダウンロード販売:価格 12,000円(消費税込)**

※高画質の動画のため、高速インターネット環境をお持ちの方に適しています。

【B版】全6回講義のDVD6枚組とレジュメ印刷物 **郵送(レターバック)販売:価格 12,500円(消費税込)**

※インターネット環境をお持ちでない方、家庭用DVDプレーヤーによる再生の方に。

【ご購入方法】

A、住所・氏名・電話・購入の版をご記入の上ファックス送付⇒ FAX 番号 042-627-7227

B、ブログの講座申し込みフォームによる申し込み⇒ <https://hokke-commons.jp>

受講の申込について

聴講希望の方は、この頁のコピーまたは別紙(チラシ)申込欄の各項目に御記入頂きまして、下記のファックス番号にご送信ください。申込用紙が届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたしますので、その手続きに従って1期6回分の「受講料」をお振込下さい。お振込を確認しましたら、「受講証」・「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、メールで申込希望の方は、同様の内容をお書きの上、下記のアドレスに送信してお申し込み下さい。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com
FAX 番号⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <https://hokke-commons.jp>

..... 申込欄

《受講希望の講座の□をチェックして下さい(いくつでも結構です)》

- 一日集中講座「日蓮主義をあらためて問い直す」 講師：大谷 栄一
- 連続講座「現代の法華菩薩道とは何か」(全5回)
※個別の受講の場合 1回 2回 3回 4回 5回
- 「歴史から考える日本仏教⑤ 承久の乱から考える鎌倉仏教」 講師：菊地 大樹
- 「『法華経』『法華文句』講義」 講師：菅野 博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 _____ 男・女 _____ 才

○住所 〒 _____

○電話 _____ Fax (mail) _____

2020(令和2)年 2月1日 発行 法華コモンズ仏教学林 事務局

192-0051 八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 042-627-7227